

2022年7月7日

学校法人三幸学園  
東京ビューティーアート専門学校  
校長 菅井 健治 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 伊藤 隆充

### 学校関係者評価委員会実施報告

2021年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

##### 1 学校関係者評価委員

- ① 伊藤 隆充 : CYANDELUCCA 代表
- ② 安部 一美 : VINGT NAIL ディレクター
- ③ 五月女 瞳 : PERSONAL BODYCARESALON LEA 代表
- ④ 石井 真琴 : 東京ビューティーアート専門学校卒業生
- ⑤ 平井 宏子 : SANKO日本語学校東京 部門長代理
- ⑥ 佐々木 護 : 飛鳥未来きずな高等学校お茶の水キャンパス キャンパス長

##### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2022年6月21日（会場 東京ビューティーアート専門学校 1101教室）

##### 3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2021年度 学校法人 三幸学園 東京ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 島田 美穂子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 伊藤 隆充

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### 【目標】

- 1) 教育理念である「技能と心に調和」を念頭に教育や人材育成に取り組み、担当教員の効果的な配置等を検討し、より実践的な授業の展開を推進する
- 2) 上記目的達成のため、現場で活かせる知識や技術の提供について強化していく

### ① 前年度振り返り

#### 1. 主体性を育む教育(心の教育強化)・社会人育成の強化

→マナー・ルール・モラルの違いを理解させ、誰からも愛される人材に育成するため、教職員の意識統一と共に授業の振興・習熟度の確認を目的とした教科会議を、1～2か月に1度実施した。

#### 2. 就職支援(在学・卒業後)

→就職担当者ミーティングを隔週で実施し、企業と連携しつつ、就職率向上を目指した

#### 3. 新型コロナウイルス禍での対策

→消毒衛生を徹底し、メディアを利用した在宅授業実施により登校人数の制限を実施した。  
行事実施の際、密にならない実施場所の選定や参加者を少人数制にする工夫を行った。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

伊藤委員長：現場でも除菌の徹底・マスクの必須着用・一面一脚毎の消毒・定期的な換気消毒を実施している。(一時期よりは少し緩めてきているが、お客様により感じ方が違うので状況に応じて行っている)

学校においても、同じような対策が必要であると感じるので、しっかりと工夫できていると感じる。(美容科・トータルビューティー科)

佐々木委員：クリアパネル越しの会話(最近はパネルを外したり・状況に応じて変更をしている)など対策にはきりが無いが、必要措置をしっかりと行っていただきました。(美容科・トータルビューティー科)

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

新型コロナウイルス感染症の影響により対面での保護者会を実施できず、保護者（新入生含）へは例年と違った伝え方となった。今後は感染対策や実施の方法を工夫し、対面実施により学校教育への理解・浸透を図る必要性を感じる。

#### ② 今後の改善方策

入学時オリエンテーション研修後の継続した指導・教育を強化する。就職対策・自己啓発を目的として授業とも連携し、校舎内での掲示物や普段の学校生活から、教育理念を伝え続ける。社会情勢は変化し続けている為、業界のニーズに着目し続け、情報収集に努める。

#### ③ 特記事項

入学前の保護者説明会にて新入生及び保護者に提示している。さらに入学後の全生徒対象の入学時オリエンテーション研修にて、学校の理念・目的・育成人材像を周知し、個々の目標設定を普段の学校生活において実践できるようにしている。  
教職員へは定期的に三幸学園のミッション・ビジョンを浸透させる機会を設け、継続的に実施している。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

阿部委員：教育理念については大人には伝わる言葉であっても、学生には伝わりにくい部分も考えられるので、伝え方の工夫をしていく必要があると思われる(美容科・トータルビューティー科)

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### ① 課題

運営組織・役割が明確化されてはいるが、適材適所での業務分担や業務の効率化を図り、個々の業務バランスを見た割り振りの必要性がある。

教育活動の積極的な情報公開を行う。

### ② 今後の改善方策

教職員の指導・実務スキル向上のため、研修を充実させ、より多くの教職員を巻き込んで打合せや意見交換できる場を提供する。また、時間確保や適材適所で業務分担をするため、授業数や校務分掌の工夫を行う。

### ③ 特記事項

教職員への案内は学習管理システム(Sanko Gate)にて実施し、タイムリーな情報提供・ペーパーレス化を図っている。

その他、勤怠管理システムの入力、経費精算システムの利用、給与明細の電子化などシステム化を図っている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

阿部委員：美容業界は拘束時間の長さがネックとなっているので、残業を減らし、営業中に教育を行うことを意識している。

教職員も目指す目標を意識し、役割分担を行うことで業務効率が上がるのではないかと。

（美容科・トータルビューティー科）

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

新任教員の教務力向上

「教員研修」・「指導力向上研修」等を実施しているが、更に教育活動の質の向上のため、各学科・コースごとに研修を実施していく必要性を感じる。また各学科間での情報共有の甘さが見受けられる。

#### ② 今後の改善方策

教務研修や OJT 指導者の配置など人材育成にも取り組んでいたが、まだ十分とは言えない。引き続き体系的な教育を推進できるシステムの構築を進める。

学科チーフや教科チーフ間での学科会・教科会内容の共有方法をより具体的に構築化していく。

#### ③ 特記事項

教員業務スキルアップ研修や教員リーダーシップ研修を実施している。

生徒を対象とした各種アンケート結果については、会議にて全教職員へ共有し、今後活かしている。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

伊藤委員長：現場教育は、担当制をとっているが、最終的なチェックは全員で行い結果的に全員が関わっている状況を作っている。

やはり先輩が背中を見せて教育することが大切と考える

コロナ禍であるが、現場実習の機会を増やすことも教務力向上につながるのではないかと。

してはならないことは教えるが、それ以外は比較的信頼して任せることも必要。(美容科)

阿部委員：言葉遣いやマナー教育を徹底して行うことが大切だと感じているため、言葉遣いの指導を徹底し、その都度注意することが必要だと感じる。技術以上に接客マナーが出来ることが大切だと思う。

また、職場における良好な人間関係構築のため、サロン内ではあだ名で呼ぶことを禁止したため、学校でも徹底した指導をお願いしたい。入社後短期間での退職を避けるために就職活動への指導をしっかりと行ってほしい。

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

新型コロナウイルス感染症の影響により一部の業界では求人票や採用枠が減少している。  
安定した求人票・採用枠の確保をするために企業様への働き掛け(企業理解)や姉妹校間の情報共有を強化することが必要である。  
退学率低減の継続と資格試験合格率の更なる向上を図る。

##### ② 今後の改善方策

企業様と連携して、就職ガイダンスや説明会を数多く実施することにより、就職活動への意識付けを強化すると共に活動の早期化を促していく。  
就職担当教員間での打ち合わせを密に実施し、会議にて就職率を常に共有する。  
退学率減少のため、学年チーム担任制をより強化し、教務会議での情報共有をこまめに実施することで、多くの目線で気づき早期対応を可能としていく。  
また、2年生の退学率増加が懸念事項のため、人間関係でのトラブルでは、カウンセラーによるカウンセリングの場を広げ、行事へのかかわり方での共同力を伸ばせる力を行事を通して指導していく。

##### ③ 特記事項

卒業生向け同窓会サイト「Sanko Link」のHP活用や卒業生支援の取り組みを実践している。  
全国姉妹校と資格試験対策の情報共有を行い、合格率向上のために模試を全国で実施している。

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

石井委員:在学中を振り返ると、退学者は1年時前期に一定数おり、2年生はあまりいなかった。  
個人的には目標があったため、退学の選択肢はなく、指導が厳しかった分頑張ることができた。(トータルビューティー科)

伊藤委員長:ビューティーショーのような大人数で実施する行事は大切に感じる。  
また、SNS の情報に対してマイナスととらえてしまうことが見受けられ、周りと比べてしまい取り残されてしまっている気持ちを持つのではないか。(美容科)

五月女委員:現場では、離職を防ぐための取り組みとして自身の成果が見えるよう、歩合制を取り入れている。自分が提供した技術に対してやりがいを感じさせているので、それを念頭に指導をお願いしたい。(トータルビューティー科)

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

前年度に引き続き、コロナ禍の学校運営となる1年となり、対面授業を減らしメディアを活用した授業を行ったことで、生徒間でコミュニケーションが希薄化した。

卒業生の就職状況の把握とキャリア支援、中途退学者への支援体制も検討していく必要がある。

### ② 今後の改善方策

教員間の情報共有の強化を図り、生徒の変化を早めにキャッチし、手遅れとならないよう対応する。

カウンセリングルームの活用の促しを行う。

学校の中のみが教育の場と考えるのではなく、広い視野に立った包括的な支援を意識・実践する。

在籍時より卒業生向け同窓会サイトがあることの告知を強化し、有効活用する。

### ③ 特記事項

姉妹校と合同で複数名のカウンセラーの先生による相談窓口を設けている。

生徒の経済的側面に対する支援体制として、奨学金や各種教育ローンの案内、学生の生活環境への支援体制として、提携している寮等の案内を実施している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

石井委員：指導をするうえで生徒を見て感じるのは、承認欲求が強い傾向にあるため、より一人ひとりに対する対応が肝心となってくる。(トータルビューティー科)

平井委員：留学生は語学を学ぶためにコミュニケーションをとると思われているが、一人行動が多い傾向が見られ始めているので、それぞれに合った支援が必要と感じる。(美容科・トータルビューティー科)

安部委員：卒業し社会に出るまでに必要な事として、相手のニーズを見極められる能力、自分の感覚と相手の感覚の違いを知る力をつけてほしい。(トータルビューティー科)

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

### ① 課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた環境設定の継続・強化を進める必要がある。  
インターンシップ受け入れ先企業の拡大を図る。

### ② 今後の改善方策

有給インターンシップの導入にあたり、企業に教育体制を理解いただくため、学生受け入れに伴う  
詳細な取り決めの提示等を行う。

コロナウイルス感染対策予防として教室内に消毒液とペーパータオルを設置し、消毒の実施、休憩  
時間に喚起の徹底を行った。

### ③ 特記事項

避難訓練を実施した。

新型コロナウイルス感染症の影響により、バリ研修に代わり沖縄研修を実施予定。

防災マニュアルの定期的確認と周知を行った。

Wi-Fi環境および教室にLAN ケーブルジャックを設置をした。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

安部委員：有給インターンシップを受け入れるとすれば、給与などの提示をしていただくことが受け入れの  
基本となる。(トータルビューティー科)

伊藤委員長：美容室はインターンシップを受け入れても任せられる業務が少ないため、入りたいサロンに  
対して実施できる方が良い。

インターンシップを受け入れするには、お互いのメリットが必要なので、就職を意識したもので  
あってほしい。

インターンシップ先を学校が準備するのではなく、希望者は生徒自身で見つけてくるのはどうか。  
まずは学校として、しっかりした意識づけが必要。(美容科)

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

適切に募集活動は行われているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、地方からの入学希望者が減少している。高校生や保護者に限らず高校側に対して学校教育に理解をいただき、業界や専門学校の状況を知っていただくよう努める。

### ② 今後の改善方策

高校生や保護者に対して、コロナ禍の業界動向を明確に伝え、就職不安を解消することで専門学校進学を前向きに検討できるよう説明を行っていく。また、高校側に対し、学園内の広報専門部署と連携を図り、同様に業界の動向や専門学校教育の理解を図れるよう働きかけていく。

### ③ 特記事項

体験入学・校内・会場ガイダンスを実施する。

各種イベントの実施及び告知をする。

教育訓練給付金制度の紹介を行う。

### ⑥ 学校関係者評価委員会コメント

佐々木委員：高校では、進学後の退学率・退学理由などを見ている。

学生がこれまで学校を辞めた経歴を持っているため、保護者も気にしている。今後は退学率や退学理由についての情報公開をお願いしたい。(美容科・トータルビューティー科)

平井委員：学生は金銭面など目先のことが気になるが日本語学校としては身につけた技術をどのように生かしているのかが気になるため、卒業後の留学生の状況を知りたい。

良いところも・悪いところも話してくれる学校は、信頼と安心感がある。

(美容科・トータルビューティー科)

外国人特区の外国人美容師就労についても、今後の受け入れ状況が気になっている。

(美容科)

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④学校関係者評価委員会コメント

なし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

時間外労働については、より一層改善する必要がある。

### ② 今後の改善方策

人員の確保し、個人の業務負担軽減を図る

### ③ 特記事項

個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について理解のための研修を実施している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

積極的な地域貢献活動が実施できていない。

### ② 今後の改善方策

新型コロナウイルス感染症拡大により中止や活動方法を変更されたことが数多いため、感染対策をより強化・工夫して、サロンワーク授業などと連携を図り実施を検討していく。

### ③ 特記事項

これまでは、ケアセンター・地域イベントからの依頼により、ハンドマッサージやネイルケア・メイク技術の提供などボランティア活動を実施している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

伊藤委員長：前年度振り返りでも述べたように、消毒衛生を徹底した感染対策を図ることで、お客様により感じ方はそれぞれとはなるが、ある程度の安心を提供できるのではないかとと思われる。（美容科・トータルビューティー科）

## (11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

### ① 課題

留学生の受け入れ体制をさらに整え、留学生同士の交流を活発にしていく。

### ② 今後の改善方策

留学生向け説明会の実施や担当者の設置を行う。

日本語学校との提携を強化を行う。

### ③ 特記事項

留学生取次者を設置している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

平井委員：日本語学校では、2年間入国できなかった留学生の入国前辞退率が4割となり、更に入国後2～3名すぐに退学が出た。

生徒にとって、考える期間が長すぎて、留学する事が目的となってしまっていて本来の目的が分からなくなってしまう様子が伺える。

年齢層が高い学生についてどのようなかわり方をした方が良いのか検討している

留学生は語学を学ぶためにコミュニケーションをとるかと思っていたが、一人行動が多い。

人間関係が数人単位から、単独の傾向が強くなっており、行事は一生懸命参加しているが、実際みんなで何かをする(一丸となって)という意識は低く、個々を大切にしている印象。

留学生だから交流会を設けるといような事も必要はないかもしれない。

(美容科・トータルビューティー科)

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・2021年度の自己評価の報告に対して、委員の方々から承認をいただいた。

・2022年度の目標として引き続き、教育理念である「技能と心の調和」を念頭に教育や人材育成を行っていく。

まずはインターンシップの実施に向け、ご協力いただける企業様へ条件や目的などを明確に提示し、学生・企業様にとっても有意義なインターンシップにしていくため取り組んでいく。また、現場で活躍が出来る接客スキルを身に付けるため、各授業において指導を強化していく。